

「鉛筆デッサン—静物」モチーフ公表について

公募制推薦・一般 入学試験科目「鉛筆デッサン—静物」のモチーフを公表します。

公表するモチーフの中から、以下の試験科目として試験ごとに、紙コップ3個と右記(P27)のモチーフ1種が出題されます。

試験名称		試験科目		
1	公募制推薦入学試験	鉛筆デッサン—静物	午前	紙コップ(白色3個) + 公表モチーフから1種
2			午後	
3	一般入学試験		午前	
4			午後	



紙コップ(白色3個)

「鉛筆デッサン—静物」モチーフ公表の意図について

京都造形芸術大学のアドミッション・ポリシーでもお伝えしているように、本学では、公募制推薦入学試験および一般入学試験においては、「高校までの基礎的な学習に実直に取り組んできた継続力が見られるか」を入学者選抜の方針と定めている。芸術大学の入学試験が、高校までの基礎的な学習を超えた過度の専門性を問われる特異なものであるのは望ましくなく、全国各地で学ぶ受験生のいずれもが等しく基礎的な学習を行った上で入学試験に臨むことができ、かつその学習継続の成果を評価したいという趣旨でモチーフの公開を行っている。日々継続的に芸術を学ぶ上での基礎力としての観察力・構成力・表現力を磨いた上で入学試験に臨んでほしい。

〈モチーフの公表内容〉 紙コップ(白色3個)とモチーフ1種

評価ポイント

観察力・構成力・表現力(描写力)を総合的に評価。

「鉛筆デッサン—静物」の出題意図

デッサンは、ものの見方、観察力を、目と手を連動させながら鍛えることであり、表現や研究をする上で必要不可欠の基礎力である。

基本的なかたちや明暗の調子を捉えやすいモチーフとして、白い紙コップを設定している。また、複数の紙コップに加え、色・かたち・質感などの対比を意図して他1種のモチーフを組み合わせ構成力を問う。しっかりモチーフと向き合い、よく見て描くこと。また、繰り返し何枚も修練を積むことで、観察力、構成力、表現力の向上につなげたい。

「鉛筆デッサン—静物」の取り組み方

デッサンは、個々のモチーフを観察し、描写するだけでなく、それらの関わりや、まわりの空間をも含めた表現であるということを意識したい。画面上で、モチーフの配置とバランスが、奥行きや広がりを感じさせる構成になっているか、モチーフが机の上に載っているように描かれているか、それらの関係に矛盾がないかなど、描かれたものとモチーフを見比べながら、素直に目の前にあるモチーフを観察し、表現を深めることを心がけてほしい。

モチーフの詳細や出題に関する質問にはお答えできません。

公表モチーフ



電球



たわし



くるみ



スタンドミラー



グレープフルーツ



ブラシ



ミューズ紙



洗浄ボトル